

37年 北見地域置戸地区

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道常呂郡置戸町

(2) 調査面積 (ha)

郡市町 村名	畑 総 面 積			調査対象面積			過年度調査面積		
	普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計
常呂郡 置戸町	3,933	—	3,933	3,933	—	3,933	—	—	—

本年度調査面積			次年度以降調査計画面積			備 考
普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計	
2,700	—	2,700	—	—	—	

2) 気 象

北海道の東部、オホーツク海岸寄の山間部に位置し、気候一般に冷涼である。

尙地帯の特徴としては農期間中の降雨量が極めて少ない事で、更に本町に於ては山間に位置するため寒暖の差が激しく農作物への影響が大きい。最寄の網走測候所の観測値をみると次の如くである。

網 走 測 候 所 (1 8 9 1 ~ 1 9 5 0 の 平 均)

項目	月別		4	5	6	7	8	9	10	11
	気 温 (℃)	平 均		3.4	8.6	12.9	17.5	20.1	15.8	9.9
(℃)	最 高 平 均		8.0	13.2	16.8	21.0	23.4	19.9	14.6	7.1
	最 低 平 均		-0.5	4.1	8.7	13.5	15.9	12.0	5.8	-0.7
降 雨 量 (mm)	平 均		52.6	71.3	65.1	95.8	86.9	131.4	94.4	81.0
	1 日 最 多 量		55.1	77.6	62.7	87.7	106.6	103.8	70.4	58.5
湿 度 (%)			75.0	77.1	87.4	86.5	85.9	83.3	76.8	73.6
風 速 (m/s)			3.4	3.1	2.2	1.9	2.1	2.6	3.2	3.6
最 多 風 向			S	S	S	S	S	S	SW	SW
日 照 時 数 (時)			190.8	183.0	199.7	199.4	209.0	174.8	175.8	127.7

晩霜 5月24日、初霜 10月12日

3) 土地条件

(1) 地 形

常呂川、訓子府川両流域に存する標高200 m内外の沖積平地と、標高200m以上、傾斜5°以上の丘陵地、丘陵性台地から成る。このうち丘陵地では傾斜10度以上の急傾斜をなす処も可成り広く、土壌保全上問題点になっている。

(2) 地 質

本町から東部に広く安山岩の堆積物が分布し、本部の北部には狭少ではあるが、石英粗面岩、変朽安山岩が分布する。尙北東部には古生層も分布する。(北海道地質図より)

(3) 侵 蝕 状 況

丘陵地、丘陵性台地に於ては、土層堅密で、傾斜の強い処が多く、水蝕を可成り受けている。尙一部では風蝕も受けている。

(4) 交 通

置戸町より各団地に至る幹線道路はよく整備され、バスの便もあるが、各農家に至る農道が不備の処が多い。

4) 土地利用及び営農状況

(1) 置戸町全体の状況は次の通りである。

a) 経営面積 (ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
3,573.8	67.9	3,505.9	—	—

b) 作付面積 (ha) 主作物のみ

作物	甜菜	燕麦	馬鈴薯	大麦	菜豆	はつか	牧草
面積	618.5	377.7	366.5	363.7	313.3	283.5	969.6

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳 牛		豚	緬羊	鶏
		成牛	育成牛			
飼育戸数	704	331		606	466	434
飼育頭数	1,096	1,134		1,765	856	12,823
1戸当平均飼育頭数	1.6	3.4		2.9	1.8	29.5

(2) 本年度調査区域の概況は次の通りである。

a) 経営面積 (1戸当平均 ha.)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
1.151	0.67	5.85	—	—

b) 作付面積 (1戸当平均 ha.)

作物	えん麦	馬鈴薯	大豆	てんさい	菜豆
面積	0.63	0.64	0.46	0.96	0.54

c) 耕種肥培費及び収量 (kg/a)

作物	元 肥				追 肥			収 量
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
えんばく	0.3	0.6	0.4	100				25.5
馬鈴薯	0.4	0.7	0.5	260				21.6
大豆	0.2	0.6	0.4	200				19.6
てんさい	0.7	0.5	0.5	220				28.0

d) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳 牛		豚	緬羊	鶏
		成牛	育成牛			
飼育戸数	84	53	45	36	64	57
1戸当平均飼育頭数	1.5	2.8	1.7	2.5	2.0	2.0

e) 農機具及び施設 (83戸の総数)

種 類	数 量	種 類	数 量
再 鋸 ブ ロ ウ	134	播 種 器	48
カ ル チ ベ ー タ ー	166	脱 穀 機	55
デ ス ク ハ ロ ー	41	発 動 機	40
双 耕 ブ ロ ウ	2	ト ラ ク タ ー	2
双 輪 ブ ロ ウ	1	カ ッ タ ー	42
噴 霧 器 (畜力)	25	納 屋	74
" (動力)	34	畜 舎	79
モ ー タ ー	10	鶏 豚 舎	56
レ ー ン	10	サ イ ロ	57
尿 撒 布 機	14	堆 肥 場	11
肥 料 播 機	57	尿 溜	27

f) 労働の関係 (1戸当人数)

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
6.8	2.7	186(延)	69(延)

本調査地域の経路状況をみると、1戸平均約1.1haの面積を所有するが、傾斜地が多いため、畑は約5.9haである。

主要作物はえん麦、馬鈴薯、大豆、てんさい、菜豆、はつか、秋蒔小麦からてんとこ一、野菜、菜草にまで及び、雑多な作物を栽培しているのが現状である。

収量は中位であるが、高収量の処も可成りある。

家畜は漸次導入されつつあり、混同経営の基礎は固まりつつある。

農機具は普通の中農機具を殆んど所有し、特に不便なことはない様である。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

土壌統名	色層序	腐植層序	礫砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土性	母材堆積様式
春日	YR/Y	表層腐植層	なし	あり	細中	非固結水成岩 洪積
田付	YR/YR	"	あり	なし	中	固結火成岩 崩積
勝山	"	"	なし	"	粗	非固結水成岩 沖積
中里	"	"	あり	"	中	"
安住	YR/Y	"	なし	あり	"	"
境野中央	YR/Y	"	"	なし	"	固結水成岩 残積
北光中央	YR/YR	"	"	あり	"	非固結水成岩 洪積
北光南	"	"	あり	なし	"	"
東川	"	"	なし	"	"	"
東栄	"	表層多腐植層	"	あり	細	"
境野南	"	表層腐植層	"	"	"	"
境野北	"	"	あり	なし	中	変成岩 崩積
幸岡	YR/Y	"	なし	あり	"	非固結水成岩 洪積
雄勝	YR/YR	"	あり	"	"	固結火成岩 崩積
秋田	"	表層腐植層	なし	なし	粗粗	固結水成岩 崩積

(2) 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式	畑面積(ha)	備考
春日-1	IIIw IItpnse	50	
"-2	IIIw IItn	100	
田付-田付	III dgise II tf	150	
勝山-1	IItn	100	
"-2	IItn	250	

土壌区名	簡略分級式	畑面積(ha)	備考
中里-1	III i IItdn	200	
"-2	IVd III ti II n	100	
"-3	III i IItdn	200	
安住-1	III w IItn	100	
"-2	III w IItn	200	
境野中央-境野中央	III d IItw nise	90	
北光中央-北光中央	III w IItnse	200	
北光南-北光南	III di IItwfnse	200	
東川-東川	IItnse	130	
東栄-東栄	III w IItdise	100	
境野南-境野南	IItn	200	
境野北-境野北	Ng III tdi IIse	30	
幸岡-幸岡	III w IItn	100	
雄勝-雄勝	III w IItnise	100	
秋田-秋田	II tgf nse	100	

2) 土壌統別説明

春日統

(1) 土壌統の概況

A、土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.5~2.3cm、腐植含量は7.1~7.6%、土性はLic~Sicである。色は7.5 YR~1.0 YRで、彩度1~3、明度2~3である。疎なく、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度9~1.6ですこぶる疎~疎である。PH(H₂O)は5.8~6.4前後。下層への境界は波状で明瞭の処が多い。

第2層は厚さ1.3~2.1cm、腐植含量は1.3~3.4%、土性はLである。色は7.5 YR~1.0 YRで、彩度3~4、明度2~5の処が多い。礫殆んどないが、まれに未風化な半角、角礫の小礫が見られる。発達弱度の細粒状~粒状構造の処が多いが、単粒~均質連結状の処もある。細孔、小孔を含む。ち密度は1.3~1.7で疎である。PH(H₂O)は6.1~6.3前後。下層への境界は不規則漸変の処が多い。

第3層はおおむね3.7cm以下で、腐植含量は2%以下、土性CL~SLである。色は2.5 Y~5 Yで、彩度1~2、明度5~7の処が主で、7.5 YR~1.0 YR、彩度4~6、明度4~7の処もある。疎なく、発達弱度の塊状構造を僅かに含む均質連結状を呈す。ち密度は1.5~2.5で、疎~密である。尙本層以下には膜状、層状、斑状の酸化沈積物を含む処が多く、透水性の

問題点である。

土壤侵蝕の防止に努める事が大切である。

D、分 布

常呂郡置戸町勝山及び北光の一部

記載責任者 野 村 琥 (北海道立農業試験場)
昭和38年3月31日

勝 山 統

(1) 土壤統の概説

A、土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~32cm、腐植含量は6.3~8.1%、土性はL~CLである。色は5YR~10YRで、彩度2~4、明度2~3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度8~13で、すこぶる疎~疎である。PH(H₂O)は6.6前後。下層への境界は波状で明瞭の処が多い。

第2層は厚さ15~30cm、腐植含量は1.4~2.6%、土性はSLである。色は5YR~10YRで、彩度3~6、明度3~6である。礫なく、発達弱度の細粒状構造、若しくは単粒状である。ち密度は10~18で疎である。PH(H₂O)は6.6前後。下層への境界は不規則で漸変の処が多い。

第3層はおおむね45cm内外以下で、腐植含量は1.6%、土性はSLである。色は5YR~10YRで、彩度4~8、明度3~4である。礫なく、単粒構造で、ち密度は9~17で、すこぶる疎~疎である。PH(H₂O)は7.1前後。

代表的断面型態

(所在地)常呂郡置戸町勝山 試坑No.2

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐(7.5YR ² / ₂)のL、ち密度12で疎、礫なく、PH(H ₂ O)6.6前後、調査時の湿めり半干、境界波状明瞭。
第2層	18~44cm	腐植を欠く褐(7.5YR ⁴ / ₄)のSL、発達弱度の細粒状構造を僅かに含む均質連結状、ち密度10で疎、礫なし、PH(H ₂ O)6.6前後、調査時の湿めり半干、境界は不規則で漸変。
第3層	44cm~	腐植を欠く暗褐(10YR ³ / ₄)のSL、礫なく、単粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)7.1前後。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	土 性				
1	0-18	5.3	12.1	47.5	26.1	14.4	L	94.2	2.51	4.72	0.52
2	18-44	5.4	20.9	47.6	19.9	11.7	SL	104.7	2.74	0.79	0.15
3	44-	4.1	31.9	52.8	11.5	3.9	SL	108.2	2.79	0.88	0.16

炭素率	腐 植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCL			CaO	MgO	K ₂ O		
9	8.1	6.6	6.3	0.5	36.5	27.7	2.0	0.7	75.8	791
5	1.4	6.6	5.7	0.5	21.8	14.7	4.2	1.0	67.6	1039
5	1.6	7.1	6.3	0.4	14.9	9.3	4.0	1.8	62.7	626

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接し、類似する統としては中里統、安住統がある。中里統には砂礫層があり、安住統には酸化沈積物があるため区分される。

A-3 母 材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 沖積世堆積

B、地 形

標高200m内外の平地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況

耕地として利用されている。主な栽培作物は麦類、荳類、てんさい、はつか、牧草である。

E、農業上の留意事項

問題点はない。

F、分 布

常呂郡置戸町勝山及境野

調査及び記載責任者 野 村 琥 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~27cm、腐植含量は4.6~7.4%、土性はL~CLである。色は10YRで、彩度2~4、明度2~3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度8~16ですこぶる疎から疎である。PH(H₂O)は6.2前後。下層への境界は波状で漸変の処が多い。

第2層は厚さ不規則であるが、おおむね16~36cmで、腐植含量は1.1~4.4%、土性はL~CLである。色は10YRで、彩度3~6、明度3~5である。礫は処により未風化な小中円礫、半角礫を含む。発達弱度の細粒状構造若しくは単粒構造である。ち密度は12~17で疎である。PH(H₂O)は6.1前後。下層への境界は不規則で明瞭である。

第3層はおおむね50cm内外以下で、未風化な円礫、半角礫からなる礫層で、その大きさは小礫から巨礫まで含まれている。

代表的断面型態

(所在地)常呂郡置戸町勝山 試坑No.21

第1層	0~26cm	腐植に富む黒褐(10YR ^{2/2})のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)6.2前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。
第2層	26~50cm	腐植を含む灰黄褐(10YR ^{4/4})のL、未風化な円、半角の小~中礫を含む。ち密度13で疎、PH(H ₂ O)6.1前後、調査時の湿り半干、境界は不規則で明瞭。
第3層	50cm~	未風化な円礫、半角礫から成る礫層。礫の大きさは小礫から大礫まで含む。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-26	4.0	5.8	53.4	30.0	10.8	L	35.9	2.52	4.29	0.42
2	26-50	5.3	10.0	46.7	29.0	14.3	L	83.7	2.61	2.57	0.30

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
10	7.4	6.2	5.4	0.6	23.6	17.6	2.2	0.9	74.4	66.2
9	4.4	6.1	4.5	2.6	21.2	9.7	1.4	0.7	45.6	131.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似する統としては勝山統、安住統がある。勝山統と区別されるのは前記の通りで、安住統は隠層がなく、酸化沈積物があるので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 沖積世堆積

B、地 形

標高200m内外の平地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況

耕地として利用されている。主な作物は苧類、麦類、馬鈴薯、はつか、てんさい等である。

E、農業上の留意事項

礫層の近い処は除礫が必要である。最近はストンピツカーが使用されている。

F、予 布

常呂郡置戸町勝山及境野

調査及び記載責任者

野村

琥(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中 里 統 - 1 区	Mi Itdn
" - 2 区	Nd Mti In
" - 3 区	Mi Itdn

② 土壌区別説明

中 里 統 - 1 区

示性分級式

養肥分で特に不足している成分はない。

特殊の障害性はない。

B、植生及び利用状況

畑及び水田として利用されている。

C、地力保全上の問題点

排水不良なことが問題となるので、排水を実施の事。

D、分 布

常呂郡置戸町字秋田及勝山

記載責任者 野 村 珉(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

境 野 中 央 統

(1) 土壌統の概説

A、土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16~19cm、腐植含量は7.5%、土性はCLである。色は10YRで、彩度2~3、明度2である。隙なく、発達中程度の細粒状構造である。ち密度9~15ですこぶる疎~疎である。PH(H₂O)は6.0前後。下層への境界は波状で明瞭である。

第2層は厚さ16~23cm、腐植含量は2%以下、土性はCLである。色は10YRで、彩度6、明度4~5である。隙なく、発達中程度の細粒状構造と、塊状構造の複合である。細小孔を含む。ち密度15~20で疎~中。PH(H₂O)は6.4前後。F層への境界は波状で漸変している。

第3層はおおむね42cm以下で、腐植含量は2%以下、土性CLである。色は5Y(母岩の色)で、彩度2、明度6~8である。隙なく、均質連結状である。ち密度は29内外の甚だ堅密層で、非有効土層になっている。PH(H₂O)は6.8前後。

代表的断面の型態

(所在地) 常呂郡置戸町境野 試抗671

第1層	0~19cm	腐植に富む黒褐(10YR ² / ₂)のCL、発達中の細粒状構造、ち密度9ですこぶる疎、PH(H ₂ O)6.0前後、調査時の湿り半干、境界は波状で明瞭。
第2層	19~42cm	腐植を欠く褐(10YR ⁴ / ₆)のCL、発達中程度の細粒状構造と、発達弱度の塊状構造の複合である。細、小孔を含む、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.4前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。

第3層 42cm~	腐植を欠く淡黄灰(5Y ⁸ / ₂)のCL、均質連結状、隙なし、ち密度29以上で甚だ密、非有効土層となっている。PH(H ₂ O)6.8前後、調査時の湿り半干。
-----------	--

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-19	4.7	8.8	42.8	31.5	17.0	CL	80.9	2.54	4.41	0.30
2	19-42	4.3	13.4	40.9	26.7	19.0	CL	106.6	2.67	0.70	0.10
3	42-	3.2	5.3	40.2	38.3	16.3	CL	-	-	0.26	0.07

炭素率	腐 植 %	P H		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
15	7.5	6.0	5.3	0.7	22.6	14.3	1.7	0.5	63.3	1.098
7	1.3	6.4	4.5	2.1	11.1	5.6	1.4	0.6	50.9	87.6
4	0.4	6.8	5.1	0.7	7.4	3.3	1.9	0.8	44.9	70.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては境野北統、春日統、境野南統があるが、何れも母材、堆積様式の相違により区別される。

A-3 母 材 固結水成岩(凝灰岩)

A-4 堆積様式 残 積

B、地 形

標高200~260m、傾斜4度内外の丘陵地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況

沢に面した急傾斜地を除き、殆んど耕地に利用されている。主要作物は馬鈴薯、苜蓿、麦類である。

E、農業上の留意事項

下層堅密で、有効土層の浅い事が問題点である。心土耕、排水等の土壌改良が望ましい。

F、分 布

常呂郡置戸町境野

調査及び記載責任者 野 村 珉(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 %	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-2.7	4.0	10.4	42.7	33.1	13.9	L	83.6	2.50	3.81	0.40
2	2.7-4.4	4.1	14.4	52.5	33.6	19.5	CL	112.8	2.73	0.98	0.15
3	4.4-	7.3	4.6	14.5	26.0	54.8	HC	105.5	2.58	0.69	0.10

炭素率 %	腐 植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
10	6.6	6.2	5.4	0.6	21.1	15.9	2.6	2.3	75.3	689
7	1.7	6.2	4.6	2.3	12.8	6.9	2.1	0.6	54.0	571
7	1.2	5.5	4.2	6.1	27.4	17.5	9.3	0.4	63.9	1,142

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては田付統、北光南統がある。田付統は下層礫層があり、北光南統は堆積様式により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(頁岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B、地 形

標高260~340m、平均傾斜5度内外の波状性丘陵地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況

比較的緩傾斜地を選んで耕地にしているが、侵蝕が可成り強く、生産力は低い。主要作物は苜蓿、麦類、馬鈴薯である。

E、農業上の留意事項

下層堅密で、粘着性の強い重植土となり、透水性、通気性の悪い事が阻害要因になっている。心土耕、排水等が必要と考えられる。

F、分 布

常呂郡置戸町

調査及び記載責任者 野 村 暁(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区の一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
北光中央統 - 北光中央区	IIIw IItnse

(2) 土壌区別説明

北光中央統 - 北光中央区

示性分級式

土 表 有 表 耕 (表 表 土 (土 (自 (自 (養 (((障 (傾 (傾 (侵 (耐 (耐 壤 効 土 表 土 土 透 保 湿 保 固 土 置 置 有 酸 障 化 物 傾 傾 入 侵 耐 耐 生 土 土 土 土 土 然 層 分 換 効 康 学 理 然 斜 為 水 風 産 力 の 層 の の の 風 乾 の 水 水 潤 肥 肥 定 塩 の 石 苦 加 磷 害 障 傾 方 傾 傾 傾 可 能 の 際 の の 粘 土 の 乾 沃 沃 状 豊 含 度 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性 厚 深 含 難 土 着 硬 性 等 級 さ さ 量 易 性 t d g p w f n i s e III II I I I 2 1 (2) III 3 2 3 I 1 1 1 II 1 1 1 2 1 I 1 1 II 2 - - II 2 2 1 簡 略 分 級 式 IIIw IItnse

A、土壌区の特徴

この土壌区は北光中央統に属する。表土の厚さは27cmで稍厚い。有効土層は1m以上。表土は礫なく中粒質で、粘着性弱い。下層は細粒質(重植土)で、粘着性強い。堅密で、透水性も悪い。

保肥力大、固定力ごく小、弱酸性で、自然肥沃度は高い。

養分は石灰、苦土、磷酸は富む~中庸であるが、処により加里少ない。特殊の障害性は無い。

B、植生及び利用状況

緩傾斜地を耕地にしているが、収量は一般に低い。急傾斜地は林地になっている。

C、地力保全上の問題点

下層堅密で、粘着性強い重植土となり、透水性、通気性悪い事が問題点になっている。

心土耕、排水等が必要と考えられる。

F、分 布 常呂郡置戸町

記載責任者 野村 現 (北海道立農業試験場)
昭和38年3月31日

北 光 南 統

(1) 土壌統の概説

A、土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16~30cm、腐植含量は7.7%、土性はCLである。色は10YRで、彩度2~4、明度2~3である。未風化半角礫(小礫)があり、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度7~17ですこぶる疎~疎である。PH(H₂O)は5.4前後。下層への境界は波状で明瞭。

第2層は厚さ11~19cm、腐植含量は2%以下、土性はCLである。色は10YRで、彩度4~6、明度4である。未風化半角、角礫(小礫、中礫)あり。発達弱度の粒状構造で、細孔あり。ち密度14~25で、疎~密。PH(H₂O)は6.2前後。下層への境界は不規則で漸変している。

第3層は厚さ14~26cmで、腐植含量は2%以下、土性はCLである。色は10YRで、彩度3~6、明度4~7である。未風化円礫の小礫を含む処がある。均質連結状。ち密度20で中。PH(H₂O)は6.3前後。下層への境界は不規則で漸変。

第4層はおおむね45cm以下で、母材の固結した土層で、ち密度30を示し、非有効土層となっている。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町 試坑No.30

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR ² / ₃)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度11で疎、未風化半角の小礫あり、PH(H ₂ O)5.4前後、調査時の湿り半干、境界は波状で明瞭。
第2層	20~31cm	腐植に欠く暗褐(10YR ⁵ / ₄)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度14で疎、未風化半角、角礫の小中礫がある。PH(H ₂ O)6.2前後、調査時の湿り半干、境界は不規則で漸変。
第3層	31~45cm	腐植に欠く褐(10YR ⁴ / ₆)のCL、均質連結状、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿り半干、境界波状漸変
第4層	45cm~	ち密度30の堅密層(残積層)。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-20	4.1	8.6	43.0	32.7	15.6	CL	99.3	2.51	4.47	0.38
2	20-31	4.0	10.7	30.9	36.0	22.3	CL	111.5	2.73	0.99	0.15
3	31-45	3.7	13.4	32.1	35.3	19.2	CL	—	—	0.54	0.10

炭素率	腐 植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
12	7.7	5.4	4.9	1.1	21.1	12.7	1.5	0.5	60.4	65.3
7	1.7	6.2	4.4	2.9	15.6	9.1	1.8	0.3	58.4	67.1
5	0.9	6.3	4.3	1.2	13.5	8.2	2.1	0.4	60.5	65.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては北光中央統、田付統があるが、北光中央統は礫層なく、酸化沈積物も無いことにより区別され、田付統とは母材、堆積様式の差により区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(石英粗面岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積/残積

B、地 形

標高200~260m、平均傾斜5度内外の台地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均気温4.8℃、年平均雨量925.0mm

D、植生及び利用状況

沢に面した急傾斜地を除き耕地として利用されている。主要作物は麦類、苧類、馬鈴薯である。

E、農業上の留意事項

下層極めて堅密で、有効土層浅く、作物根の伸長が妨げられている。

心土耕により下層土の風化の促進と、根圏域の拡大を図る事が大切である。

F、分 布

常呂郡置戸町北光

調査及び記載責任者 野村 現 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
北光南統 一 北光南区	III di II twfnse

② 土壌区別説明

北 光 南 統 一 北 光 南 区

示 性 分 級 式

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 層 の 粘 着 性	耕 転 土 層 の 粘 着 性	表 土 層 の 乾 燥 性	土 地 の 水 分 持 続 性	自 然 肥 沃 度	固 定 力	土 層 換 層 性	養 分 含 量	障 害 性	障 害 性	障 害 性	障 害 性	障 害 性	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	傾 斜 度	侵 蝕 性	侵 蝕 性	耐 風 蝕 性	耐 風 蝕 性
III II III I I 2 1 1 II 3 2 (2) II 1 1 2 II 1 1 1 1 2 III 1 3 II 2 -- II 2 2 1	t d g p	w	f	n	i	s	e															
簡 略 分 級 式	III di II twfnse																					

A、土壌区の特徴

この土壌区は北光南統に属する。表土の厚さは20cmで稍深い、有効土層は45cmまでである。

表土は中粒質で、粘着性弱く、45cm以下の下層は甚だ堅密な土層で、非有効土層と考えられる。

保肥力大、固定力ごく小、強酸性で、自然肥沃度は中庸である。

養分は石灰、苦土、燐酸は富む〜中であるが、加里が幾分少ない処がある。障害性としては、有効土層の浅い事、侵蝕も若干受けている。

B、植生及び利用状況

沢に面した急傾斜地を除き耕地として利用されている。収量は中程度。

C、地力保全上の問題点

下層甚だ堅密で、有効土層の浅い事が問題点である。

心土耕により下層の風化の促進と、根の伸長を図る事が大切である。

D、分 布

常呂郡置戸町北光

記載責任者 野 村 琥 (北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

東 川 統

(1) 土壌統の概説

A、土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm、腐植含量は5.7%、土性はLである。色は10YRで、彩度3、明度2~3である。礫は処により、半風化の円、半角の小、中礫を含む。発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度7~17で、すこぶる疎~疎である。PH(H₂O) 7.3前後。下層への境界は波状で明瞭。

第2層は厚さ16~29cm、腐植含量は2%以下。土性はLである。色は10YRで、彩度3~4、明度3~5である。未風化、半風化な半角、角礫の小中礫を含み、発達弱度の細粒状構造と、発達中程度の粒状構造の複合である。細小孔を含み、割れ目も多く、透水性、保水性共に良好である。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)は7.3前後。下層への境界は波状で漸変している。本層までは扇状堆積物と考えられる。

第3層はおおむね36cm内外以下で、腐植含量は2%以下、土性SCである。色は10YRで、彩度4~8、明度4~5である。未風化、半風化、更に風化の進んだ円礫、半角礫の小礫、中礫を含む。均質連結状、ち密度は17~21で中、PH(H₂O)は6.5前後。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町北光 試坑47

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐(10YR ² / ₃)のL、発達弱度の細粒状構造、ち密度17で疎、PH(H ₂ O) 7.3前後、調査時の湿めり半干、境界波状明瞭
第2層	18~36cm	腐植を欠く褐(10YR ⁴ / ₄)のL、未風化、半風化な半角、角礫の小中礫を含み、発達弱度の細粒状構造と発達中程度の粒状構造の複合構造、細小孔を含む、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)は7.3前後、調査時の湿めり半干、境界は波状で漸変。
第3層	36cm~	腐植を欠く黄褐(10YR ⁵ / ₈)のSC、未風化、風化の進んだ円、半角礫の小中礫を含み、均質連結状、ち密度20で中、PH(H ₂ O) 6.5前後、調査時の湿めり半干

東 栄 統

(1) 土壌統の概説

A、土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12~20cm、腐植含量は10.0%、土性はCLである。色は10YRで、彩度2~3、明度2である。礫は殆んどなく、発達中程度の粒状構造の処が多い。ち密度10~12で疎、PH(H₂O)は6.1前後。下層への境界は波状で漸変している。

第2層は厚さ12~19cm、腐植含量は3.8%、土性はLicである。色は10YRで、彩度4、明度3~4である。礫は殆んどないが、処によつて未風化、半風化の円、半角礫の小、中礫がある。発達中程度の粒状構造で細小孔、割れ目共に含む。ち密度13~20で疎~中。PH(H₂O)は6.1前後。下層への境界は波状で漸変。

第3層は厚さ19~27cm、腐植含量は2%以下、土性はCLである。色は10YRで、彩度4~8、明度4~5である。未風化、半風化の円、半角形の小中礫を含む処が多い。均質連結状構造を呈し、ち密度20~21で中。層状、膜状の酸化沈積物に富む。PH(H₂O)は6.3前後。下層への境界は不規則で明瞭。

第4層はおおむね59cm以下で、腐植含量は2%以下。色は10YRで、彩度4、明度6である。単粒状で、ち密度29ですこぶる密である。排水悪い。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町東栄 試坑1651

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む黒褐(10YR ² / ₂)のCL、礫なく、発達中程度の粒状構造、ち密度10で疎、PH(H ₂ O)6.1前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。
第2層	20~38cm	腐植を含む暗褐(10YR ³ / ₄)のLic、発達中程度の粒状構造で、細小孔、割れ目共に含む、ち密度13で疎、PH(H ₂ O)6.1前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。
第3層	38~59cm	腐植を欠く黄褐(10YR ⁵ / ₈)のCL、均質連結状、ち密度20で中、PH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿り半干、層状、膜状の酸化沈積物に富む。境界は不規則で明瞭。
第4層	59cm~	腐植を欠く灰黄橙(10YR ⁶ / ₄)、単粒状、ち密度29、調査時の湿り半干、非有効土層。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘度	土性				
1	0-20	6.1	8.6	40.5	31.3	19.5	CL	67.2	2.49	5.79	0.48
2	20-38	6.3	11.7	31.0	29.0	28.3	Lic	83.1	2.68	2.18	0.25
3	38-59	5.2	21.8	34.5	25.4	18.2	CL	105.1	2.75	0.57	0.10

炭素率	腐 植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
12	10.0	6.1	5.5	0.6	26.1	13.0	2.8	0.6	50.0	985
9	3.8	6.1	4.8	1.0	20.1	8.5	2.6	0.7	42.2	1.184
6	1.0	6.3	4.9	0.7	11.8	5.6	1.8	1.3	47.5	1.032

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接し、類似の統としては東川統がある。東川統は酸化沈積物が無く、腐植含量も少ないため区別される。

A-3 母 材 非固結水成岩(安山岩)/石英粗面岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積/残積

B、地 形

標高300~380m、平均傾斜5度内外の波状性台地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃。

D、植生及び利用状況

緩傾斜地を選んで耕作している。急傾斜地は林地になっている。主要作物は苧類、てんさい、馬鈴薯、麦類である。

E、農業上の留意事項

東川統同様高所にあるため風害を受け易く、又土壌も下層堅密で排水悪く、更に侵蝕も受け易い悪条件が重なっている。

排水の実施、風蝕、水蝕防止の保全対策が望まれる。

F、分 布

常呂郡置戸町東栄

調査及び記載責任者

野 村

現(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土壌区名	簡略分級式
東栄統一東栄区	IIIw IItdise

② 土壌区別説明

東栄統一東栄区

示性分級式

土表有表耕	(表土)	(表土)	(表土)	(透)	(保)	(自)	(保)	(固)	(養)	(置)	(有)	(酸)	(障)	(傾)	(傾)	(侵)	(耐)																
土生土力可能性等級	幼土の層の厚さ	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性	粘土の粘性																
	t	d	g	p	w	f	n	i	s	e																							
	III	II	II	I	I	2	1	1	III	3	2	3	I	1	2	1	I	1	1	1	1	1	II	1	2	II	2	—	—	II	2	2	1
簡略分級式	IIIw IItdise																																

A、土壌区の特徴

この土壌区は東栄統に属する。表土の厚さは20cm。有効土層は59cm内外。表土は隙なく、中粒質で粘着性弱い。59cm以下の下層は甚だ堅密で、排水悪く、作物根の伸長も悪い。

保肥力大、固定力小、弱酸性で、自然肥沃度は高い。養分は石灰、苦土、加里、磷酸共に富む。特殊の障害性としては下層堅密で、排水悪く有効土層も浅く、土壌の侵蝕も激しいことである。

B、植生及び利用状況

緩傾斜地で耕作しているが、前記の如き種々の阻害要因が重なっているため、収量は全般に低い。

C、地力保全上の問題点

高所にあり風害を受け易く、又下層堅密で、傾斜も強いいため水蝕を受け易い。更に排水も悪いため湿害をうけ生産力低い。従って排水の実施、風、水蝕防止の保全耕作、緑作帯の設置が

望まれる。

D、分 布

常呂郡境戸町東栄

記載責任者 野村 琏(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

境 野 南 統

(1) 土壌統の概説

A、土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~26cm、腐植含量は7.7%、土性はCLである。色は10YRで、彩度2~3、明度2~3である。隙なく発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度10~15で疎である。PH(H₂O)は6.2前後。下層への境界は不規則で明瞭。

第2層は厚さ14~24cm、腐植含量は2.6%、土性はLicである。色は10YRで、彩度3~6、明度2~5である。隙なく、発達中程度の細粒状構造を呈す。ち密度12~19で疎~中。PH(H₂O)は6.3前後。下層への境界は波状で漸変。

第3層は厚さ11~22cm、腐植含量は2%以下。土性はCLである。色は10YRで、彩度4~8、明度4~6が主体で、処によつてはこれに2.5Y⁶/₂を混入している。隙なく、発達弱度の粒状構造と、細塊状構造の複合、細小孔、及び割れ目がある。排水不良のため斑点状の酸化沈積物を含む。ち密度12~19で疎~中。PH(H₂O)は6.4前後。下層への境界は波状で漸変。

第4層はおおむね55cm以下、腐植含量は2%以下。色は10YR、彩度6~8、明度4~6が主体で、これに2.5Y⁷/₂を混入した処もある。層状、膜状の酸化沈積物を含む。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡境戸町境野 試坑659

第1層	0~18cm	腐植に富む黒褐(10YR ² / ₂)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度12で疎、PH(H ₂ O)6.2前後、調査時の湿めり半干、境界は不規則で明瞭。
第2層	18~34cm	腐植を含む暗褐(10YR ³ / ₄)のLic、発達中程度の粒状構造、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿めり半干、境界は波状で漸変。
第3層	34~55cm	腐植を欠く黄褐(10YR ⁵ / ₆)のCL、発達弱度の粒状構造と細塊状構造の複合、細小孔を含む、割れ目あり、ち密度16で疎、PH(H ₂ O)6.4前後、調査時の湿めり湿、酸化沈積物あり、境界

記載責任者 野村 琥 (北海道立農業試験場)
昭和38年3月31日

境野北統

(1) 土壤統の概説

A、土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ11cm、腐植含量は5.7%、土性はCLである。色は10YRで、彩度2、明度2である。未風化な角礫(小礫、中礫、大礫)を富むすこぶる富み、発達弱度の粒状構造を呈す。ち密度9ですこぶる疎である。pH(H₂O)は5.8前後。下層への境界は不規則で明瞭となっている。

第2層は厚さ29cm、腐植含量は2%以下、土性はCLである。色は10YRで、彩度4、明度4である。未風化な角礫(小礫、中礫、大礫)に富み、単粒状である。ち密度19で中である。pH(H₂O)は6.1前後。下層への境界は不規則で漸変。

第3層は40cm内外以下で、腐植含量は2%以下、土性は第2層同様の礫からなる礫層。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町境野 試坑672

第1層 0-11cm 腐植に富む黒褐(10YR²/₂)のCL、発達弱度の粒状構造、ち密度9ですこぶる疎、pH(H₂O)5.8前後、調査時の湿り半干、境界は不規則で明瞭。

第2層 11-40cm 腐植に欠く褐(10YR⁴/₄)のCL、単粒状、ち密度19で中、未風化な角礫(小、中、大礫)に富む。pH(H₂O)6.1前後、調査時の湿り半干、境界は不規則で漸変。

第3層 40cm~ 腐植を欠く褐(10YR⁴/₆)の礫層、未風化な角礫(小、中、大礫)層である。調査時の湿り半干。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-11	4.1	15.9	28.5	36.8	18.8	CL	86.6	2.68	3.35	0.27
2	11-40	4.6	13.6	31.7	35.5	14.3	CL	—	—	0.47	0.12

炭素率	腐植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
12	5.7	5.8	5.0	1.0	24.7	16.9	3.5	0.8	68.4	900
4	0.8	6.1	4.3	4.9	22.1	14.7	6.1	0.3	66.6	1,033

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては境野中央統、春日統の一部(春日-2)があるが、何れも母材の相違で区別される。

A-3 母材 変成岩(珪岩)

A-4 堆積様式 崩積

B、地 形

標高200~290m、傾斜6度内外の丘陵地

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況

表土の礫が少ない処で耕作されているが、大部分は林地である。

E、農業上の留意事項

下層が近く、作物根の伸長、農作業を妨げる事が多いので、林地、草地として利用する方がよい。耕地とする場合は機械力による除礫が必要である。

F、分 布

常呂郡置戸町境野

調査及び記載責任者 野村 琥 (北海道立農業試験場)
昭和38年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
境野北統一境野北区	Ng mtdi lse

② 土壤区別説明

境野北統一境野北統

示性分級式

土壌生産力可能性等級	表土の厚さ	有効土層の深さ	耕転の難易	(表土)の粘着性	(表土)の乾燥性	土壌の水分	自然肥力	保肥力	固肥力	養分交換性	(置換)塩基量	(有)苦土量	(酸)加里量	障害性	(化学)的性質	(物理)的性質	傾斜	(自)然傾斜	(人)為傾斜	侵入	侵蝕	(耐)水性	(耐)風蝕
tdgp				w		f			n					i		s					e		
IV III III IV I 2 I 2 I 1 2 I 1 2 I 1 1 1 1 1 III 1 3 II 2 -- II 2 2 1																							
簡略分級式 Mg III tdi Ilse																							

A、土壤区の特徴

この土壤区は境野北統に属する。表土の厚さは11cmで浅い。有効土層は40cm内外。表土は礫を含み、中粒質で下層は礫層になっている。

保肥力大、固定力小、弱酸性で、自然肥沃度は高い。養分分は石灰、苦土、燐酸、加里共に含む。障害性としては礫層のため耕作が困難なことである。

B、植生及び利用状況

礫の少ない処を耕地にしているが、大部分は林地である。

C、地力保全上の問題点

下層礫層で、根の伸長、農耕作業の阻害因子になっている。機械力による除礫が望ましい。

D、分 布

常呂郡置戸町境野

記載責任者 野村 昉 (北海道立農業試験場) 昭和38年3月31日

幸 岡 統

(1) 土壤統の概説

A、土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16~25cm、腐植含量は6.8%、土性はCLである。色は10YRで、彩度1~3、明度2である。礫なく発達弱度の細粒構造の処が多い。ち密度6~14ですこぶる疎~疎である。PH(H₂O)は6.5前後。下層への境界は波状で漸変の処が多い。

第2層は厚さ11~18cm、腐植含量は2%以下、土性はCLである。色は10YRで、彩

度4、明度3~4である。礫なく、発達弱度の粒状構造と、塊状構造の複合で、細小孔あり、ち密度は15で疎。PH(H₂O)は6.3前後。下層への境界は波状で漸変の処が多い。

第3層は厚さ16~22cm、腐植含量は2%以下、土性はLである。色は10YRで、彩度3~6、明度5~6の処が多いが、一部に2.5Y^{7/3}の処もある。風化円礫(小礫)が処により含まれている。発達弱度の細塊状~塊状構造で、細小孔あり。ち密度14~22で疎~中である。斑状の酸化沈積物を含む。PH(H₂O)は6.5前後。下層への境界は波状で漸変の処が多い。

第4層はおおむね50cm内外以下で、腐植含量2%以下、色は2.5Yで、彩度2、明度6~7の処が多い。尙一部に10YR、彩度1~4、明度7の処もある。ち密度20~27で中~密、処によつてはち密度30の処もあり、全般に堅密で、透水性悪い。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町幸岡 試坑1694

第1層	0~16cm	腐植に富む黒褐(10YR ^{2/3})のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度7ですこぶる疎、礫なし、PH(H ₂ O)6.2前後。調査時の湿めり半干、境界は波状で漸変。
第2層	16~29cm	腐植を欠く暗褐(10YR ^{3/4})のCL、礫なく、発達弱度の粒状構造と塊状構造の複合、細小孔あり、ち密度15で疎、PH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿めり半干、境界は波状で漸変。
第3層	29~45cm	腐植を欠く黄褐(10YR ^{5/6})のL、風化小円礫を含み、発達弱度の細塊状構造、ち密度14で疎、斑点状の酸化沈積物を含む。PH(H ₂ O)6.5前後、調査時の湿めり湿、境界は波状で漸変。
第4層	45cm~	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y ^{7/2})、ち密度26~30で密である。不透水層になっている処が多い。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容 積 重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-16	3.9	9.6	35.2	32.8	2.2.9	CL	9.9.5	2.6.3	3.9.0	0.2.5
2	16-29	4.2	10.8	33.9	32.3	2.5.0	CL	12.0.5	2.7.1	1.0.6	0.1.8
3	29-45	3.8	14.0	39.3	35.2	1.1.5	L	-	-	0.5.7	0.0.7

炭素率	腐 植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
16	6.8	6.2	5.4	0.6	14.4	9.9	1.5	0.7	69.1	6.52
6	1.9	6.3	4.7	1.9	12.8	6.9	1.7	0.4	53.6	6.90
7	0.9	6.5	4.7	1.8	6.2	3.2	1.2	0.5	51.8	6.42

A-2 他の土壌統との関係
本統に隣接する統としては雄勝統、秋田統がある。本統とは母材が異なり(安山岩)区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B、地形
標高260~340m、傾斜2~3度の波状性台地。

C、気候
気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況
殆んど耕地として利用されている。

E、農業上の留意事項
下層堅密で不透水層になり、透水性、通気性が阻げられている。
排水が第1に必要で、其の後に心土耕、深耕等により土層改良を図る事が大切である。

F、分布
常呂郡置戸町幸岡
調査及び記載責任者 野村 琥(北海道立農業試験場)
昭和38年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土壌区名	簡略分級式
幸岡統一幸岡区	IIIw II tfn

② 土壌区別説明

幸岡統一幸岡区

示性分級式

土質	表土	有効土層	耕土	(表土)	(表土)	(表土)	土	(透)	(保)	(湿)	自然	(保)	(固)	(土)	養	(置)	(有)	(酸)	(障)	(化)	(物)	傾	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)	
生	土	土	土	土	土	土	地	水	水	潤	肥	肥	定	塊	の	石	苦	加	燐	害	障	傾	然	斜	為	水	風		
力	の	の	の	の	の	の	乾	性	性	度	沃	力	力	態	否	量	量	量	度	性	性	斜	方	傾	傾	蝕	蝕		
可	能	厚	深	含	難	性	性	性	性	度	力	力	態	否	量	量	量	度	性	性	斜	方	傾	傾	蝕	蝕	性	性	
住	等	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
t	d	g	p				w				f			n					i			s			e				
III	II	I	I	I	2	1	2	III	3	2	2	II	2	1	1	II	1	1	1	2	1	I	1	1	I	1	1	1	
簡略分級式 IIIw II tfn																													

A、土壌区の特徴
この土壌区は幸岡統に属する。表土の厚さは16cm内外。有効土層は1m以上。表土には隙なく、中粒質で、粘着性中。下層堅密で、透水性悪く、酸化沈積物を含む。

保肥力中、固定力ごく少、弱酸性で、自然肥沃度は中庸である。養肥分は石灰、苦土、燐酸加里の含量が中庸の処が多く、従って養肥分は他の区に比し少ない。

B、植生及び利用状況
耕地として利用され、収量は中程度である。

C、地力保全上の問題点
この土壌区は下層堅密で、透水性悪く、植物根の伸長、透水性、通気性の悪い事が地力保全上の問題点である。

従って排水に努める事が第一に必要で、次に心土耕、深耕によつて土壌の改良に努める事が必要である。

D、分布
常呂郡置戸町幸岡
記載責任者 野村 琥(北海道立農業試験場)
昭和38年3月31日

雄 勝 統

(1) 土壌統の概説
A、土壌統の特徴
A-1 断面の特徴
第1層は厚さ15~28cm、腐植含量は6.4%、土性はIである。色は10YRで、彩度1

～3、明度2～3である。未風化な小中円、半角礫を含み、発達弱度の細粒状構造を呈す。ち密度7～16で、すこぶ疎～疎である。pH(H₂O)は6.3前後。下層への境界は不規則で漸変している。

第2層は厚さ12～20cmで、腐植含量は2.4%、土性はLである。色は10YRで、彩度2～4、明度3～7である。未風化な半角礫(中礫)を含み、発達中程度の細粒状構造の複合で、全般的に構造の発達は良好と認められる。細小孔を含む。ち密度11～18で疎。pH(H₂O)は6.6前後。下層への境界は波状で漸変している。

第3層は厚さ10～27cm、腐植含量は2%以下、土性はLicである。色は10YRで、彩度3～6、明度4～7である。未風化半風化の小、中角礫、半角礫を含み、発達中程度の粒状構造と、発達弱度の細塊状構造の複合、細小孔を含む。ち密度12～20で、疎～中である。pH(H₂O)は6.4前後。下層への境界は波状で漸変している。

第4層はおおむね55cm内外以下で、腐植含量は2%以下、色は10YRで、彩度2～4、明度5～6の処と、2.5Y～5Yで、彩度2～4、明度7～8の処がある。滲透水のため過湿で、層状、膜状の酸化沈積物に富む。未風化な小中円礫、半角礫に富む。

代表的断面型態

(所在地) 常呂郡置戸町雄勝 試坑No.81

第1層	0～20cm	腐植に富む黒褐(10YR ² / ₂)のL、発達弱度の細粒状構造、未風化な小、中、円、半角礫を含む、ち密度10で疎、pH(H ₂ O)6.3前後、調査時の湿り半干、境界は不規則で漸変。
第2層	20～35cm	腐植を含む暗褐(10YR ³ / ₃)のL、未風化な小半角礫を含み、発達中程度の細粒状構造と粒状構造の複合構造、細小孔を含む、ち密度13で疎、pH(H ₂ O)6.6前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。
第3層	35～55cm	腐植を欠く黄褐(10YR ⁵ / ₆)のLic、未風化、半風化の小中半角、角礫を含み、発達中程度の粒状構造と、弱度の細塊状構造の複合、細小孔を含む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)6.4前後、調査時の湿り半干、境界は波状で漸変。
第4層	55cm～	腐植を欠く灰黄橙(10YR ⁶ / ₃)、未風化の小中円礫、半角礫に富む、均質連結状、ち密度17で疎、調査時の湿り半干、層状、膜状の酸化沈積物に富む。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒 径 組 成 %					現 地 容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
1	0-20	3.9	15.6	41.2	31.7	11.6	L	9.21	2.59	3.69	0.34
2	20-35	3.9	17.0	36.8	35.8	10.4	L	111.9	2.72	1.38	0.17
3	35-55	3.6	11.8	37.1	17.4	33.6	Lic	—	—	0.77	0.10

炭素率	腐 植 %	PH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽和度 %	磷酸吸 収係数
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
11	6.4	6.3	6.0	0.5	21.3	1.73	2.0	0.9	81.3	652
8	2.4	6.6	5.6	0.5	14.9	10.8	2.6	0.9	72.8	633
8	1.3	6.4	5.1	0.7	14.5	8.8	2.6	1.1	61.0	668

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては秋田統、幸岡統がある。幸岡統とは母材堆積様式の相違で区別され(前記)、秋田統は酸化沈積物がないため区別される。

A-3 母 材 固結火成岩(安山岩)

A-4 堆積様式 崩積

B、地 形

標高200-300m、傾斜4～5度の波状性丘陵地。

C、気 候

気候一般に冷涼。年平均雨量925.0mm、年平均気温4.8℃

D、植生及び利用状況

緩傾斜地は耕地になっているが、15度以上の急傾斜地(土壌統面積の約半分)は林地になっている。主要作物は苧類、麦類である。

E、農業上の留意事項

傾斜の強い処が多く、土壌侵蝕を受け易いから等高線栽培、緑作帯設置等の保全耕作が必要である。

尚滲透水のため過湿地の処であるから、排水も必要である。

F、分 布

常呂郡置戸町雄勝

調査及び記載責任者

野 村

琥(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

傾斜の強い処が多く、土壌侵蝕を受け易く、尙ほため耕起困難な処が多い。更に農業技術の面で遅れている農家が多い。

侵蝕防止のため等高線栽培、緑作帯設置等の保全耕作が必要で、更に農業技術の普及も大切である。

D、分 布

常呂郡置戸町秋田

記載責任者 野 村 琥(北海道立農業試験場)

昭和38年3月31日

3、保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

地形、土壌断面の特徴、主要保全対策等を考慮し次の保全対策区を設定した。

保全対策区名	該当土壌区	畑面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
春日保全対策地区	春日-1	計 850	下層甚だ堅密で、透水性悪い。	排水 深耕 心土耕
	" -2			
	北光中央-北光中央			
	東栄-東栄			
秋田保全対策地区	境野南-境野南	計 280	傾斜強く、且つ礫層近く、土壌侵蝕強。	土壌侵蝕防止、(保全耕作) 除 礫
	幸岡-幸岡			
	雄勝-雄勝			
	田付-田付			
東川保全対策地区	境野中央-境野中央	計 420	下層堅密	深耕 心土耕 有機物施用
	北光南-北光南			
中里保全対策地区	中里-1	計 857	土性粗粒質で、養肥分流出し易い。	有機物施用 一部除礫
	" -2			
	中里-3			
	勝山-1			
	" -2			
安住保全対策地区	安住-1 " -2	計 300	排水不良。	排水 有機物施用

2) 保全対策地区別説明

< 春日保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備 考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡置戸町	850	-	850	春日-1、春日-2、北光中央-北光中央、東栄-東栄、境野南-境野南、幸岡-幸岡、雄勝-雄勝

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本調査地域の大半を占め、標高200m内外以上、平均傾斜5度内外の丘陵地～丘陵性台地に分布している。下層堅密で、透水性、通気性悪く、作物根の伸長を妨げ、更に土壌の流亡も促進している。

② 営農の方向その他

本道の東部の奥地に位置し、標高も可成り高く一般に冷涼な気候で、収量も不安定である。現状では大豆、麦類を主にした穀菽経営を行なっているが、甜菜、緑肥作物を取り入れた輪作体系の確立が必要であろう。尙将来は混同経営も考慮すべきであろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	春日保全対策地区 850ha	暗渠排水、山際には集水溝を作る。	土管購入補助
深耕 心土耕	同上 同上	大型トラクター使用 同上	

< 秋田保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡置戸町	280	—	280	田付一田付、 境野北一境野北 秋田一秋田

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

全般に傾斜地が多く、且つ礫層近く、土壌侵蝕を受け、地力が低下しやすい。

② 営農の方向その他

春日保全対策地区同様の気候であるが、傾斜強く、土壌侵蝕を強く受けるので、等高線栽培と共に緑作帯を兼ねた緑肥作物を導入し、これを考慮した輪作体系で営農を行なうことが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地区及び 対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量
保全耕作	秋田保全対策 地区 280ha	等高線栽培 緑作帯設置	指導の徹底、種子補助
除 礫	同上	機械力	ストンピツカー使用

< 東川保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡置戸町	420	—	420	東川一東川、境野中央一境野 中央、北光南一北光南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

標高200m以上の丘陵地、台地に位置し、下層堅密で、通気性悪く、作物根の伸長を妨げ

ているのが特徴である。

② 営農の方向、その他

春日保全地区同様の気候で、一般に冷涼で一部には風蝕を受ける処もあるので、甜菜、緑肥作物を取り入れた輪作体系で行く事が望ましい。尚将来は混同経営も考慮すべきであろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量
深 耕	東川保全対策 地区 420ha	大型トラクター	
心土耕	同上	同上	
有機物 施用	同上	堆厩肥施用、緑肥導 入	家畜導入補助 種子補助

< 中里保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園畑	計	
常呂郡置戸町	850	—	850	中里一1、中里一2、中里 一3、勝山一1、勝山一2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川の流域に分布する沖積地で、本町では生産力が最も高い。しかし一般に下層の土性粗粒質で、処によっては礫層が近く、養肥分の流亡が考えられる。

② 営農の方向、その他

地力を維持、増進させるため有機物の補給(堆厩肥、緑肥)が必要である。このためには家畜を導入した混同経営で行くか、緑肥作物を領み入れを輪作体系で行くことが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量
有機物施用	中里保全対策地 区 850ha	堆厩肥施用、 緑肥導入、	家畜導入、尿溜、建設補助、種子 補助
一部除礫	同上	機械力使用、	ストンピツカー使用

< 安住保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)			備考 (該当土壌区)
	普通畑	樹園地	計	
常呂郡置戸町	300	—	300	安住-1 安住-2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

常呂川及び訓子府川の流域に分布する沖積地で、面積は広くないが、排水不良な過湿地である。

② 営農の方向、その他

中里保全対策地区同様。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	安住保全対策地区 300ha	暗渠排水	土管補助
有機物施用	同上	堆肥施用 緑肥導入	家畜糞、尿溜建設補助、種子補助

4 調査成績一覧表

1) 土層断面調査成績

土壌区	地点番号	色(明度)	腐植	土性	構造	隙	孔隙	粗密	湿り	傾斜	侵蝕	現地土性(融雪会法)	
春日-1	5	10YR(2)	3		bL ₁			H ₂ 03	W ₂	S ₂	E ₁₋₂	L	
		5Y(7)	1		sn			H ₂ 07	W ₃			SL	
	6	10YR(3)	3		gn ₁			H ₁ 09	W ₂	S ₂	E ₁₋₂	L(SL)	
		10YR(6)	1		Ms(pl)			H ₂ 03	W ₂				L(SL)
	12	10YR(2)	3		gn ₂ gn ₁			H ₂ 04	W ₂	S ₂	E ₁₋₂		
		2.5YR(5)	1		gn ₁			H ₂ 06	W ₃				
	46	7.5YR(2)	3		gn ₁			H ₂ 04	W ₂	S ₂	E ₁₋₂		L
		7.5YR(4)	1		gn ₂ bL ₁			H ₂ 04	W ₃				CL
	68	10YR(2)	3		gn ₁			H ₁ 00	W ₂	S ₁	E ₁		
		10YR(4)	2		gn ₂			H ₂ 04	W ₂				
69	7.5YR(2)	3		gn ₁			H ₁ 00	W ₂	S ₂	E ₁₋₂		L	
	7.5YR(5)	1		gn ₁ gn ₁			n ₂ 04	W ₂				CL	
70	10YR(2)	3		gn ₁			H ₁ 00	W ₂	S ₂	E ₁₋₂		L	
	10YR(5)	1		gn ₁			H ₂ 06	W ₂				L(CL)	
73	10YR(2)	3		gn ₁			H ₂ 06	W ₂	S ₂	E ₁₋₂		L	
	10YR(4)	1		gn ₁			H ₂ 04	W ₂				CL	
18	10YR(2)	3		gn ₁			H ₂ 12	W ₂	S ₂	E ₂			
	10YR(3)	1		gn ₁			H ₂ 06	W ₂					
22	10YR(2)	3		gn ₂			H ₂ 03	W ₂	S ₃	E ₃		L	
	10YR(4)	1		gn ₁			H ₂ 04	W ₂				CL/G	

土质区	地点 番号	色(明度)	腐植	土性	構造	礫	孔除	粗密	湿り	傾斜	浸蝕	現地土性 (硬学会法蚀感)	
田付一田付	23	10YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₂ gn ₂ gn ₂	○□Kb ₁ c ₁ ○□△Ka ₂ b ₂ c ₂	ch-a ₂ b ₁	H ₂ 09 H ₃ 09	W ₂ W ₂	S ₂	E ₂	CL CL/G	
	24	10YR(2) 10YR(4)	3 1	L CL/G	gn ₁ gn ₂ bL ₁	△□KK'a ₂ b ₂ △□KK'a ₃ b ₃ c ₂	ch-a ₂	H ₂ 03 H ₂ 03	" "	"	"	L	
	25	7.5YR(3) 7.5YR(4)	3 1		gn ₁ gn ₁	△□Ka ₂ b ₂ △□KK'a ₂ b ₁	cha ₂ b ₁	H ₁ 05 H ₂ 03	" "	"	"	CL/G L	
	44	10YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₁ gn ₁	○□KK'a ₂ b ₂ c ₂	ch-a ₂ b ₁	H ₂ 12 H ₃ 07	" "	"	"	L/G	
	49	10YR(3) 10YR(4)	3 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂ gn ₂	○□KK'a ₂		H ₂ 04 H ₃ 06	" "	S ₁	E ₁	L(SL) CL/G	
	勝山-1	1	5YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₁ sn		ch-a ₁	H ₂ 12 H ₂ 03	" "	"	"	SL(L) SL
		2	7.5YR(2) 10YR(4)	3 1	L SL	pL MS(gn)			H ₂ 12 H ₁ 00	" "	"	"	L SL
		4	7.5YR(2) 10YR(3)	3 1		sn(gn ₂)			H ₂ 00 H ₃ 00	" "	"	"	L SL
		11	10YR(2) 10YR(3)	3 1		gn ₁ sn			H ₁ 00 H ₂ 12	" "	"	"	L S(SL)
	勝山-2	16	10YR(2) 5YR(5)	3 1		sn			H ₁ 00 H ₂ 03	" "	"	"	SL S
34		10YR(2) 10YR(4)	1 2/1	CL	MS(gn ₂)		ch-a ₂	H ₁ 00 H ₂ 12	" "	"	"		
35		10YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₁ MS(gn ₂)			H ₂ 00 H ₂ 04	" "	"	"	L L	

1309-1

土质区	地点 番号	色(明度)	腐植	土性	構造	礫	孔除	粗密	湿り	傾斜	浸蝕	現地土性 (硬学会法蚀感)	
勝山-2	36	10YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₁ gn ₁			H ₂ 12 H ₂ 07	W ₂ W ₂	S ₁	E ₁	L L	
	37	10YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₁ gn ₂ gn ₁		ch-a ₂	H ₂ 12 H ₂ 03	" "	"	"	L L	
	38	5YR(2) 5YR(4)	3 1		gn ₂ gn ₂ (MS)		ch-a ₂	H ₁ 08 H ₂ 12	" "	"	"	L L	
	40	10YR(2) 10YR(3)	3 1		gn ₁ gn ₁₋₂		ch-a ₂ b ₁	H ₁ 08 H ₂ 12	" "	"	"	CL L	
	42	10YR(3) 10YR(4)	3 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂		ch-a ₁	H ₂ 03 H ₃ 03	" "	"	"	L CL	
	62	10YR(3) 10YR(3)	2 1		gn ₁ gn ₁ sn/MS		ch-a ₂ b ₂	H ₂ 07 H ₂ 07	" "	"	"	CL SL	
	63	10YR(3) 10YR(6)	3 1		gn ₁ sn			H ₂ 07 H ₂ 04	" "	"	"	S/SL SL	
	65	10YR(3) 10YR(4)	3 1		gn ₁ bL ₁			H ₁ 07 H ₂ 04	" "	"	"	SL S/SL	
	中里-1	7	10YR(2) 10YR(5)	3 1		gn ₁ gn ₁			H ₁ 10 H ₂ 08	" "	"	"	L L
		13	10YR(2) 10YR(4)	3 1		gn ₂ gn ₁ gn ₁		ch-a ₂	H ₂ 06 H ₂ 06	" "	"	"	L L
14		10YR(2) 10YR(5)	3 1		gn ₁₋₂ gn ₁ gn ₁		ch-a ₂	H ₁ 00 H ₂ 06	" "	"	"	L/(G) SL	
19		10YR(2) 10YR(5)	3 1		gn ₁ bL ₁		ch-a ₂ b ₁	H ₂ 03 H ₂ 07	" "	"	"	SL L/S(G)	

1309-1

土 壤 区	地 点 番 号	色 (明度)	腐 植	土 性	带 造	礫	孔 隙	粗 密	湿 り	傾 斜	侵 蝕	現 地 土 性 (農 学 会 法 触 検)
中里一1	21	10 YR(2) 10 YR(4)	3 2	L L/G	gn ₁	○□Ka ₁ b ₂		H ₂ 00 H ₂ 03	W ₂ W ₃	S ₁	E ₁	
	中里一2	3	3 2	CL CL/f	gn ₁ gn ₁ sn	○□a ₃ b ₃ c ₃ d ₂		H ₂ 12 H ₂ 06	" "	"	"	
中里一3		10	3 1		" "	○□Ka ₂ b ₂		H ₂ 00 H ₁ (7)	" "	"	"	SL s/g
	中里一3	15	3 1		bL ₁ sn	○□Kb ₃ c ₂	ch-a ₂	H ₂ 12 H ₂ 03	" "	"	"	SL SL/G
中里一3		20	2		gn ₁ sn	○□Ka ₂ b ₂ c ₂ ○□Ka ₃ b ₃ c ₃		H ₁ 00	"	"	"	SL S(G)
	中里一3	39	3 1		gn ₁ gn ₂		ch-a ₁ b ₁	H ₂ 04 H ₂ 04	" "	"	"	SL CL/G
中里一3		41	3 1		gn ₁ gn ₁		ch-a ₂ b ₁	H ₁ (8) H ₂ 04	" "	"	"	
	中里一3	64	3 1		gn ₁ gn ₁		ch-a ₂	H ₂ 06 H ₂ 03	" "	"	"	SL SL/G
中里一3		66	3 1		gn ₁			H ₁ (9)	"	"	"	SL G(S)
	安住一1	8	3 1		gn ₁ gn ₂ /MS		ch-a ₂ b ₁ c ₁	H ₁ (7) H ₂ 00	W ₂ W ₃	"	"	
安住一1		9	3 1		gn ₁ sn			H ₂ 03 H ₂ 03	W ₂ W ₃	"	"	L S
	安住一1	17	2 1		gn ₁ pL		ch-a ₁	H ₂ 04 H ₂ 03	W ₂ W ₃	"	"	CL L

土 壤 区	地 点 番 号	色 (明度)	腐 植	土 性	带 造	礫	孔 隙	粗 密	湿 り	傾 斜	侵 蝕	現 地 土 性 (農 学 会 法 触 検)
安住一2	75	10 YR(1) 2.5 Y (7)	3 1	CL SCL	MS(bL ₁)		ch-a ₁ b ₁	H ₂ 00 H ₂ 04	W ₂ W ₃	S ₁	E ₂	
	安住一2	77	3 1		gn ₁ pri			H ₁ (9) H ₂ 02	W ₂ W ₃	"	"	"
安住一2		89	3 1		gn ₁ bL ₁ bL ₁	○Kb ₂ c ₂	ch-a ₁ ch-a ₁	H ₂ 06 H ₂ 03	W ₂ W ₃	"	"	"
	安住一2	93	3		gn ₁			H ₂ 02	W ₂	"	"	"
境野中央一		71	3 1		gn ₂ gn ₂ -BL ₁		ch-a ₃ b ₁	H ₁ (9) H ₂ 03	W ₂ W ₂	S ₂	E ₂	
	境野中央一	45	3 1		gn ₂ gn ₂ pL		ch-a ₁	H ₂ 03 H ₂ 20	" "	S ₁	E ₁	L SL
北光中央一		26	3 1		gn ₁ bL ₁	□△KKa ₁ b ₁	ch-a ₁	H ₂ 12 H ₂ 20	" "	S ₂	E ₂	L CL
	北光中央一	27	3 1		gn ₁ gn ₁ BL ₁	○□Ka ₁ ○□KK'a ₂	ch-a ₁	H ₂ 03 H ₂ 23	" "	"	"	L L
北光中央一		29	3 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂		ch-a ₂ b ₁	H ₂ 00 H ₂ 03	" "	S ₂	E ₂	
	北光中央一	33	3 1		gn ₁ bL ₁	□△KK'a ₁ b ₁ c ₁	ch-a ₁	H ₂ 02 H ₂ 20	" "	"	"	L L
北光南一		28	3 1		gn ₁ bL ₁ BL ₁	□Ka ₁ OKa ₁	ch-a ₁	H ₂ 00 H ₂ 20	" "	"	"	L CL/G
	北光南一	30	3 1		gn ₁ gn ₁	□Kb ₁ □△Kb ₁ c ₁	ch-a ₁	H ₂ 00 H ₂ 04	" "	"	"	
北光南一		31	3 1		gn ₁ gn ₁		ch-a ₂	H ₂ 02 H ₄ 23	" "	"	"	L CL

土 区	地点 番 号	色 (明 度)	腐 植	土 性	構 造	礫	孔 隙	粗 密	湿り	傾 斜	侵 蝕	現 地 土 性 (農 学 会 法 触 感)	
栗川一栗川	32	10 YR(3) 10 YR(4)	5 1		gn ₂ gn ₁		ch-a ₂	H ₁ (7) H ₂ (8)	W ₂ W ₂	S ₂	E ₂	L CL/G	
	47	10 YR(2) 10 YR(4)	3 1	L L	gn ₁ gn ₁ gn ₂	△□KK'a ₂ b ₂ ○□K'a ₂ b ₁	ch-a ₂ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	SL L	
		48	10 YR(2) 10 YR(5)	3 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂	○□K'a ₂ b ₁ ○□K'a ₂ b ₂ c ₂	ch-a ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	SL L
	50	10 YR(2) 10 YR(3)	5 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂	gn ₁ gn ₁ gn ₂		ch-a ₂ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	S ₁	E ₁	SL CL
		52	10 YR(3) 10 YR(4)	3 2		gn ₂ gn ₂		ch-a ₂ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	SL CL
栗川一栗川	53	10 YR(2) 10 YR(3)	3 1		gn ₁ gn ₂	○□KK'a ₂ b ₁ c ₁ d ₁ ○□K'a ₁ b ₁	ch-a ₁ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	S ₂	E ₂	L L	
		54	10 YR(2) 10 YR(3)	3 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂	○□K'a ₁ b ₁ ○□K'a ₁ b ₂ c ₁		" "	"	"	SL L	
	51	10 YR(2) 10 YR(3)	4 2	CL LiC	gn ₂ gn ₂	gn ₂ gn ₂			H ₁ (7) H ₂ (8)	" "	S ₁	E ₁	L CL
		55	10 YR(2) 10 YR(4)	3 2		gn ₁ gn ₂ gn ₁	○K'a ₁ ○K'a ₁ b ₁ c ₁	ch-a ₁ b ₁	H ₁ (7) H ₂ (8)	" "	S ₂	E ₂	SL CL
	56	10 YR(2) 10 YR(4)	3 1		gn ₂ gn ₂	gn ₂ gn ₂	○□KK'a ₁ b ₁	ch-a ₁ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	S ₂	E ₂	SL CL
栗川一栗川	43	10 YR(2) 10 YR(5)	3 1		gn ₁ gn ₁ gn ₂			H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	S ₁	E ₁	L CL	
		57	10 YR(3) 10 YR(3)	3 2		gn ₁ gn ₂ gn ₁			H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL

境野南一 境野南	58	10 YR(2)	4		gn ₁			H ₁ (7) H ₂ (8)	W ₂ W ₂	S ₁	E ₁	L CL
	59	10 YR(4)	1		gn ₁ B ₁ l ₁		ch-a ₁ b ₁	H ₁ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	
		10 YR(2)	3	CL	gn ₁			H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	
	60	10 YR(2)	3		gn ₂		ch-a ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
61	10 YR(2)	3		gn ₁		○K'a ₁		H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
	10 YR(4)	1		gn ₁			ch-a ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
67	10 YR(2)	3		gn ₂ gn ₁			ch-a ₂ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
	10 YR(4)	1		gn ₁				H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
境野北一 境野北	72	10 YR(2)	3	CL	gn ₁	△K'a ₂ b ₂		H ₁ (7) H ₂ (8)	" "	S ₂	E ₂	
	10 YR(4)	1	CL/G	gn	gn	△K'a ₂ b ₂ c ₂ d ₂		H ₃ (9)	"	"	"	
幸岡一幸岡	83	10 YR(2)	3		gn ₁		ch-a ₂	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	S ₁	E ₁	L L
	2.5 Y (7)	1		gn ₁			ch-a ₁ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L L
84	10 YR(2)	3		gn ₁			ch-a ₁ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
	10 YR(3)	1		gn ₁ gn ₁				H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
85	10 YR(2)	4		gn ₁				H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
	10 YR(6)	1		gn ₁ B ₁ l ₁			ch-a ₂ b ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
86	10 YR(2)	3		gn ₁				H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
	10 YR(4)	2		gn ₂			ch-a ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	" "	"	"	L CL
87	10 YR(2)	3		gn ₁ -gn ₁				H ₁ (6) H ₁ (8)	W ₂ W ₃	"	"	
	10 YR(3)	2		gn ₁ -gn ₁				H ₁ (6) H ₁ (8)	W ₂ W ₃	"	"	
94	10 YR(2)	3	CL	gn ₁			ch-a ₁ b ₁	H ₁ (7) H ₂ (8)	W ₂ W ₂	S ₁	E ₁	
	2.5 Y (7)	1	CL	gn ₁ B ₁ l ₁			ch-a ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	W ₂ W ₃	"	"	L L
雄勝一雄勝	82	10 YR(2)	3		gn ₁		ch-a ₁	H ₁ (7) H ₂ (8)	W ₂ W ₃	S ₂	E ₂	L L
	10 YR(7)	1		gn ₁			ch-a ₁	H ₂ (7) H ₂ (8)	W ₂ W ₃	"	"	L L

土质区	地点番号	色(明度)	腐植	土性	構造	隙	孔隙	粗密	湿度	傾斜	侵蝕	現地土性 (農学会法性)
雄勝一雄勝	81	10 YR(2)	3	L	g n ₁	○□K a ₂ b ₂ c ₂		H ₁ 00	W ₂	S ₂	E ₂	
		10 YR(3)	2	L	g n ₁ g n ₂	□K b ₁	ch-a ₂ b ₁	H ₂ 03	W ₂	S ₃	E ₂	SL CL
	76	10 YR(2)	3		g n ₁		ch-a ₂ b ₁	H ₁ 00	"	"	"	CL
		10 YR(4)	2		g n ₁	○□K x ₂ b ₂		H ₂ 03	W ₂	S ₂	E ₂	CL CL
74	10 YR(2)	3	1		g n ₁	○□K a ₂ b ₂ c ₂	ch-a ₁	H ₁ (9)	W ₂	S ₂	E ₂	L
	10 YR(4)	1	4		g n ₂ g n ₂		ch-a ₁	H ₂ 04	W ₂	S ₂	E ₂	CL
78	10 YR(2)	4	2/1		g n ₁ g n ₂			H ₁ 00	"	"	E ₂	L
	10 YR(4)	2/1	3		g n ₂ g n ₂	○□K K a ₂ b ₂ c ₁	ch-a ₂ b ₁	H ₂ 03	"	"	E ₂	L
79	10 YR(2)	3	1		g n ₁	○□K K a ₂ b ₂		H ₁ (7)	"	"	E ₂	L
	10 YR(4)	1	3		g n ₂ b ₂ c ₂		ch-a ₁	H ₂ 03	"	"	E ₂	L
80	10 YR(3)	4	1		g n ₁			H ₁ 00	"	"	E ₂	L
	10 YR(7)	1	3		g n ₂ b ₂ c ₂		ch-a ₁	H ₂ 03	"	"	E ₂	L
88	10 YR(2)	3	1		g n ₁			H ₁ 02	"	"	E ₂	L
	10 YR(4)	1	2	SL	g n ₁ g n ₂	○□K a ₁ b ₁		H ₂ 02	"	"	E ₂	L
90	10 YR(3)	2	1	SL	g n ₁	○□K a ₁ b ₁	ch-a ₁	H ₂ 03	"	"	E ₁	L
	10 YR(5)	1	1	SL	g n ₁	○□K K a ₂ b ₂		H ₂ 03	"	"	E ₁	L
秋田一秋田	92	10 YR(2)	2		g n ₁		ch-a ₁	H ₂ 03	"	"	E ₁	L
		10 YR(5)	2/1		g n ₁ g n ₂	○□K K a ₂ b ₂ c ₂	ch-a ₁	H ₂ 03	"	"	E ₁	L

2) 土壤分析成績

保全対策区	土质区	地点番号	層	深さ cm	風乾細土中				細土無機物中				現地における物理性				化学性													
					水分%	腐植%	粗砂%	細砂%	シルト%	粘土%	容積重 g	固相容積 CC	水分容積 CC	空気容積 CC	孔隙率%	PH	置換酸度 Y ₁	T-CT-N %	有機物 C/N	置換容量塩基 me	CaO me	MgO me	K ₂ O me	石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg				
春日保全対策地区	春日	12	1	0-23	60	76	47	437	477	265	288	LiC	965	390	487	135	620	58	50	08	440	0.45	10	26.9	432.1	736	253	613	1079	50
			2	23-37	4.6	13	10.9	405	514	356	131	L	120.1	441	374	185	559	65	47	21	0.72	0.16	5	158	2890	44.4	20.3	65.1	755	0
			3	37-54	4.4	0.7	12.7	40.6	53.3	30.9	15.8	CL	127.7	458	377	16.5	54.2	64	49	1.2	0.42	0.10	4	127	2401	37.3	30.1	67.5	774	0
	春日	68	1	0-17	4.3	7.1	0.3	20.1	20.4	47.4	52.1	SiC	898	350	442	21.8	650	64	5.8	0.4	4.11	0.33	13	22.5	508.3	37.3	14.0	81.4	874	5.0
			2	17-30	4.7	3.4	23.4	32.6	56.0	29.6	14.3	L	105.7	395	392	21.3	60.5	61	4.5	1.4	1.93	0.19	10	19.8	197.8	44.9	14.7	35.6	830	0
			3	30-51	4.0	1.8	25.5	41.8	67.3	18.4	14.3	SL	-	-	-	-	-	63	4.7	1.0	1.02	0.10	10	9.4	128.3	39.5	26.1	49.0	635	0
秋田一秋田保全対策地区	秋田	18	1	0-18	3.9	5.5	12.4	48.1	60.5	27.2	12.3	L	94.7	356	35.9	28.5	54.4	5.7	5.0	1.1	3.19	0.38	8	17.7	372.0	33.4	31.2	74.9	615	10.0
			2	18-40	3.9	1.9	16.2	31.5	47.7	33.4	18.9	CL	119.2	432	33.3	23.5	56.8	6.1	4.4	1.0	1.17	0.16	7	13.8	217.0	40.9	18.7	55.9	59.6	0
			3	40-51	4.0	1.6	31.9	52.8	84.7	11.5	3.9	SL	108.2	38.8	36.4	24.8	61.2	7.1	6.3	0.4	0.88	0.16	5	14.9	262.1	80.5	83.4	62.7	62.6	20.0
	秋田	34	1	0-28	4.0	6.3	3.4	52.2	55.6	29.2	15.2	CL	78.1	30.5	33.1	36.4	69.5	7.0	6.7	0.4	3.66	0.40	9	29.1	798.2	40.9	47.9	97.9	86.3	5.0
			2	28-40	4.3	2.6	2.8	54.4	57.2	25.7	17.1	CL	95.5	35.7	37.1	27.2	64.3	7.2	6.5	0.4	1.48	0.20	7	22.5	564.6	35.0	17.0	89.5	86.5	0
			3	40-56	3.4	1.0	6.2	65.8	72.0	12.8	15.3	SL	103.4	37.3	36.8	25.9	62.7	7.2	6.4	0.4	0.58	0.10	6	16.0	375.2	39.2	25.9	83.5	58.4	5.0
中里保全対策地区	中里	21	1	0-26	4.0	7.4	5.8	53.4	59.2	30.0	10.8	L	85.9	34.1	42.4	23.5	65.9	6.2	5.4	0.6	4.29	0.42	10	23.6	491.3	44.6	43.8	74.4	66.2	5.0
			2	26-50	5.3	4.4	10.0	46.7	56.7	29.0	14.3	L	83.7	32.1	38.9	29.0	67.9	6.1	4.5	2.6	2.57	0.30	9	21.2	271.9	28.3	34.3	45.6	1,313	10.0

保全対策区	土壌区	地点番号	層	深さ cm	風乾土			細土無機物中			土性	地中に於ける容積			PH	置換酸度 %	有機物		置換容量 me	置換性塩基			石灰飽和度 %	有効吸収係数	有効吸収係数 mg					
					水分 %	植 %	腐 %	粗砂 %	細砂 %	シルト %		粘土 %	容積重 g	空隙率 %			容積 %	容積 %		容積 %	T-C %	T-N %				C/N	CaO mg	MgO mg	K ₂ O mg	
																														容積重 g
中里	中里一2	3	1	0-13	4.5	4.6	7.3	44.7	52.0	31.4	16.5	CL	75.6	28.6	55.4	36.0	71.4	6.0	5.4	0.7	2.68	0.42	6	28.5	558.5	48.6	48.2	69.8	7.3	5.0
			2	13-20	4.5	2.5	8.5	52.0	60.5	22.5	12.0	CL	-	-	-	-	-	-	-	6.3	5.4	0.6	1.44	0.19	8	27.8	557.0	60.7	48.5	68.8
安住	安住一3	41	1	0-17	8.7	6.7	16.3	36.5	52.8	28.9	18.3	CL	84.2	32.0	29.0	39.0	68.0	7.0	6.7	0.1	3.89	0.35	11	26.5	696.4	54.7	54.8	93.6	10.31	5.0
			2	17-41	3.4	1.1	17.8	51.7	69.5	20.4	10.0	SL	111.2	40.9	29.6	29.5	59.1	7.1	6.4	0.4	0.61	0.11	6	16.0	589.2	23.1	29.8	86.6	5.84	10
			3	41-65	3.1	0.8	13.4	58.7	72.1	17.4	10.5	SL	107.0	59.5	33.5	27.0	60.5	7.1	6.2	0.4	0.47	0.09	5	14.4	532.9	43.7	31.0	82.4	8.36	5.0
安住	安住一1	8	1	0-18	4.1	7.7	29	53.6	56.5	32.5	11.1	L	82.8	32.4	45.4	22.2	67.6	6.3	5.1	0.8	4.46	0.43	11	20.5	362.4	22.3	16.7	63.0	7.11	10.0
			2	18-44	4.0	2.4	0.5	41.2	41.7	43.1	15.2	CL	96.8	36.1	48.6	15.3	63.9	6.2	4.4	3.0	1.41	0.17	8	14.9	210.1	53.4	130	50.3	1,183	5.0
			3	44-59	4.1	0.9	0.5	44.6	45.1	38.1	16.9	CL	116.9	43.1	44.4	12.5	56.9	6.2	4.3	4.2	0.52	0.09	6	15.6	262.1	62.8	222	9.9	7.18	3.1
安住	安住一2	75	1	0-17	10.0	8.9	7.8	50.8	58.6	22.6	16.8	CL	80.2	31.9	41.9	26.2	68.1	5.7	4.3	4.2	5.16	0.43	12	24.5	323.1	25.4	28.9	47.0	1,498	5.0
			2	17-31	5.2	1.7	9.6	49.5	59.1	19.4	21.6	SL	-	-	-	-	-	5.8	4.1	9.8	0.97	0.15	7	10.3	101.4	23.5	33.8	35.0	84.6	0.1
			3	31-52	3.8	0.6	32.1	46.8	78.9	14.1	7.0	SL	-	-	-	-	-	6.1	4.3	3.6	0.34	0.09	4	12.6	161.3	41.7	15.7	45.6	1,055	1.0
境野中	境野中一	71	1	0-19	4.7	7.5	8.8	42.8	51.6	31.5	17.0	CL	80.9	31.8	39.3	28.9	68.2	6.0	5.3	0.7	4.41	0.30	15	22.6	400.9	33.7	25.2	63.3	1,098	5.0
			2	19-42	4.3	1.3	13.4	40.9	54.3	26.7	19.0	CL	106.6	39.9	39.4	20.7	60.1	6.4	4.5	2.0	0.70	0.10	7	11.0	158.8	28.0	26.2	50.9	87.6	0
			3	42-	3.2	0.4	5.3	40.2	45.5	38.3	16.3	CL	-	-	-	-	-	6.8	5.1	0.7	0.26	0.07	4	7.4	92.9	39.2	37.2	44.9	70.1	0.1
北光中	北光中一	29	1	0-27	4.0	6.6	10.4	42.7	53.1	33.1	13.9	L	83.6	33.5	31.0	35.5	66.5	6.2	5.4	0.6	3.91	0.40	10	21.1	444.8	52.1	108.4	75.3	689	5.0
			2	27-44	4.1	1.7	14.4	32.5	46.9	33.6	19.5	CL	112.8	41.3	33.4	23.4	58.7	6.2	4.6	2.3	0.98	0.15	7	12.8	194.1	41.9	26.1	54.0	57.1	0
			3	44-	7.3	1.2	4.6	14.5	19.1	26.0	54.8	HC	105.5	40.9	46.9	12.2	59.1	5.5	4.2	6.1	0.69	0.10	7	27.4	492.0	18.7	20.3	63.9	1,142	0
北光南	北光南一	30	1	0-20	4.1	7.7	8.6	43.0	51.6	32.7	15.6	CL	99.3	39.6	48.0	12.4	60.4	5.4	4.9	1.1	4.47	0.38	12	21.1	357.2	29.8	22.9	60.4	653	10.0
			2	20-31	4.0	1.7	10.7	30.9	41.6	36.0	22.3	CL	111.5	40.9	30.9	28.2	59.1	6.2	4.4	2.9	0.99	0.15	7	15.6	255.3	37.2	15.7	58.4	67.1	0

東川一	東川一	47	3	31-45	3.7	0.9	13.4	32.1	45.5	39.3	19.2	CL	-	-	-	-	-	6.3	4.3	1.2	0.54	0.10	5	13.5	228.6	41.7	16.9	60.5	65.9	0
			1	0-18	4.8	5.7	17.2	44.3	61.5	26.5	12.0	L	106.1	42.0	41.7	16.3	58.0	7.3	7.0	0.4	3.31	0.38	9	25.8	625.3	22.5	37.8	86.5	84.0	5.0
			2	18-36	5.2	1.8	19.3	38.0	57.3	33.3	9.3	L	104.6	37.7	34.3	28.0	62.3	7.3	6.6	0.2	1.07	0.16	7	18.5	422.1	30.6	51.5	81.6	92.1	0.1
東栄一	東栄一	51	3	36-70	5.4	1.0	21.2	37.9	59.1	12.6	28.4	SC	113.9	40.6	40.2	19.2	59.4	6.5	5.0	0.7	0.58	0.08	8	12.8	220.5	42.4	11.9	61.4	7.68	0
			1	0-20	6.1	10.0	8.6	40.5	49.1	31.3	19.5	CL	67.2	27.0	43.8	29.2	73.0	6.1	5.5	0.6	5.79	0.48	12	26.1	364.7	57.0	29.8	50.0	98.5	10.0
			2	20-38	6.3	3.8	11.7	31.0	42.7	29.0	28.3	L i C	83.1	31.0	45.0	24.0	69.0	6.1	4.8	1.0	2.18	0.25	9	20.1	238.3	53.3	32.0	42.2	1,184	0
境野南	境野南一	59	3	38-59	5.2	1.0	21.8	34.5	56.3	25.4	18.2	CL	105.1	38.0	47.5	14.3	61.8	6.3	4.9	0.7	0.57	0.10	6	11.8	157.1	55.3	59.4	47.5	1,032	0
			1	0-18	4.8	7.7	9.4	40.7	50.1	23.3	18.7	CL	90.6	35.8	40.2	24.0	64.2	6.2	5.8	0.5	4.47	0.40	11	21.8	469.0	30.0	52.5	76.8	77.7	5.0
			2	18-34	5.5	2.6	15.9	32.0	47.9	23.9	28.1	L i C	90.7	32.4	29.9	37.7	67.6	6.5	4.9	0.7	1.51	0.19	8	15.2	246.8	45.3	25.4	57.9	9.69	0
境野北	境野北	72	3	34-55	4.9	1.6	15.0	40.2	55.2	26.9	17.9	CL	102.7	37.2	37.6	25.2	62.8	6.4	4.8	0.7	0.93	0.10	9	13.2	192.5	51.6	26.3	52.2	9.64	0
			1	0-11	4.1	5.7	15.9	28.5	44.4	36.8	18.8	CL	86.6	32.3	27.9	39.8	67.7	5.8	5.0	1.0	3.35	0.27	12	24.7	473.6	70.5	39.5	68.4	90.0	10.0
			2	11-40	4.6	0.8	13.6	31.7	45.3	35.5	14.3	CL	-	-	-	-	-	6.1	4.3	4.9	0.47	0.12	4	22.1	412.8	123.9	13.1	66.6	1,033	1.0
幸岡	幸岡	94	1	0-16	3.9	6.8	9.6	35.2	44.8	32.8	22.9	CL	99.5	37.8	38.1	24.1	62.2	6.2	5.4	0.6	3.90	0.25	16	14.4	279.0	29.7	31.2	69.1	6.52	5.0
			2	16-29	4.2	1.9	10.8	33.9	44.7	32.3	23.0	CL	120.5	44.5	40.5	15.0	55.5	6.3	4.7	1.9	1.06	0.18	6	12.8	191.7	33.5	20.9	53.6	6.90	0
			3	29-45	3.8	0.9	14.0	39.3	53.3	35.2	11.5	L	-	-	-	-	-	6.5	4.7	1.8	0.57	0.07	7	6.2	90.4	23.2	25.0	51.8	6.42	0
雄勝	雄勝	81	1	0-20	3.9	6.4	15.6	41.2	56.8	31.7	11.6	L	92.1	35.5	32.0	32.3	64.5	6.5	6.0	0.5	3.69	0.34	11	21.3	485.7	40.7	41.6	81.3	6.52	5.0
			2	20-35	3.9	2.4	17.0	36.8	53.8	35.8	10.4	L	111.9	41.1	29.9	29.0	58.9	6.6	5.6	0.5	1.38	0.17	8	14.9	299.7	52.0	43.7	72.8	6.33	0
			3	35-55	3.6	1.3	11.8	37.1	48.9	17.4	33.6	L i C	-	-	-	-	-	6.4	5.1	0.7	0.77	0.10	8	14.5	247.7	53.2	50.6	61.0	6.68	0
秋田	秋田	90	1	0-20	2.9	3.9	25.4	41.4	66.8	23.8	9.4	SL	100.1	37.0	27.7	35.3	63.0	7.1	6.9	0	2.30	0.22	11	17.0	426.2	25.7	49.4	89.5	6.81	5.0
			2	20-35	3.4	0.8	33.5	32.2	65.7	22.3	12.0	SL	-	-	-	-	-	6.6	5.6	0.5	0.49	0.10	5	14.3	322.1	30.0	32.4	70.8	4.56	0
			3	35-60	3.2	0.8	36.0	30.5	66.5	28.9	4.6	SL	-	-	-	-	-	6.3	5.3	0.6	0.47	0.08	6	16.8	378.1	11.5	64.7	80.1	5.46	0

1) 採取土壤の性質

土壌区名	地点 番号	農家名	反応		Y ₁	矢木式指数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
春日一1	12	鈴木桃治	5.5	5.0	0.8	1	1	3	2
	5	大江信一	6.0	5.4	0.6	1	1	2	3
	6	大穴沢吾平	6.2	6.2	0.4	1	1	2	2
春日一2	68	芦野常一	6.4	5.9	0.4	1	2	2	3
	46	土田昇一	5.8	4.8	2.2	2	2	2	2
	69	寺町勝一	5.5	5.0	1.3	2	2	1	3
	70	寺町徳市	5.6	5.1	0.8	2	2	1	3
田村一田付	73	太田藤七	5.3	4.9	1.1	2	2	1	2
	18	後藤政雄	5.4	5.2	1.2	1	1	1	2
	22	佐藤福蔵	6.4	6.2	0.7	1	2	2	3
	23	堀内	5.6	4.8	2.6	2	2	2	3
	24	矢次吉次	6.1	5.7	0.7	1	2	2	1
	25	山北忠徳	5.8	4.7	1.7	1	2	3	3
	44	吉田今朝由	5.6	5.0	1.0	2	1	3	3
勝山一1	19	工藤仁太郎	6.5	6.3	0.5	1	2	1	1
	2	相沢喜久寿	6.4	6.2	0.6	1	1	2	2
	1	下村切男	6.6	6.3	0.6	1	1	2	1
	4	大槻三三	6.1	5.7	0.5	1	1	2	1
	11	高橋弘	5.2	4.6	1.9	1	1	2	3
	16	向井	6.1	5.8	0.4	1	2	1	1
勝山一2	34	須藤久三郎	6.8	6.7	0.4	1	2	2	2
	35	新井義高	5.7	5.1	1.1	1	1	1	1
	36	岩崎正太郎	6.3	6.1	0.6	1	1	2	1
	37	市原順治	6.3	6.1	0.5	1	1	2	3
	38	仁木義明	6.8	6.4	0.5	1	1	1	1
	40	岡田芳春	6.4	6.1	0.4	1	1	1	2
	42	伊藤克己	6.4	6.0	0.5	1	2	1	1
	62	田岡頼金	6.5	6.1	0.5	1	1	1	1
	63	清野雲喜	6.8	6.5	0.4	1	1	1	1
中里一1	65	三浦一雄	6.4	6.2	0.5	1	2	3	1
	21	藤本昇	6.2	5.9	0.7	1	2	2	1
	7	佐藤兵馬	5.9	4.7	1.1	1	2	1	3
	13	小川長蔵	5.8	5.2	0.8	1	2	1	3
	14	篠原清光	5.8	5.5	0.7	1	2	2	2
19	山崎安雄	6.1	5.7	0.7	1	2	2	1	

土壌区名	地点 番号	農家名	反応		Y ₁	矢木式指数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
中里一2	3	大内次男	5.8	5.3	1.0	1	2	1	1
	20	斎藤	5.8	5.1	1.0	1	2	2	3
	10	請川	6.7	6.5	0.4	1	1	1	1
	15	溝井福治	6.6	6.2	0.7	1	2	3	3
中里一3	41	早坂専五郎	6.7	6.5	0.4	1	2	1	1
	39	松田一男	6.8	5.6	0.7	1	2	1	2
	64	瀬口一雄	6.2	5.8	0.5	1	2	3	3
安住一1	66	遠藤昇	6.2	6.1	0.4	1	2	1	1
	3	布田春吉	5.9	5.3	0.6	1	2	2	3
	9	白沢茂	5.9	5.5	0.5	1	2	2	3
安住一2	17	後藤正治	5.1	4.1	13.3	2	3	2	3
	75	佐々木金四郎	5.8	4.4	4.8	2	2	1	2
	77	佐々木金四郎	4.8	4.4	4.6	1	1	1	1
	89	藤原伊之助	6.3	6.2	0.5	1	1	1	1
境野中央一	93	菊地清	6.3	5.8	0.5	1	1	1	1
	71	星賀清造	5.9	5.2	0.8	2	2	1	2
北光中央一	45	寺山国造							
	29	大和田武雄	6.4	5.4	0.6	1	2	2	1
	26	山北三平	5.9	5.3	0.8	1	2	2	3
北光中央	27	炭屋金七	6.6	6.3	0.6	1	2	1	3
	33	井上角次郎	6.1	5.6	0.6	1	2	1	2
北光南一	30	松川幸八	5.4	4.8	1.3	1	3	2	3
	28	高内忠一	6.4	6.0	0.5	1	2	2	3
	31	長田真雄	5.9	5.1	0.8	2	1	3	3
東川一東川	32	山本謙次郎	6.0	5.0	1.2	2	1	2	2
	47	安西佳詩	6.9	6.6	0.4	1	2	1	1
	48	広中武雄	6.3	6.0	0.5	1	2	1	1
	50	伊東常蔵	5.7	5.2	1.0	2	2	1	1
東栄一東栄	52	菅野源一	5.9	5.3	0.7	1	2	1	2
	53	岡晴夫	5.8	4.7	2.4	2	2	2	3
	54	上原豊春	6.0	5.4	0.6	1	1	1	1
	51	後藤喜右門	6.3	5.6	0.6	1	1	1	1
境野南一	55	宮本市太郎	6.0	5.6	0.6	1	1	1	1
	56	瀬口強	5.9	5.1	0.7	2	1	1	1
	59	横田貴一	6.3	6.0	0.4	2	1	1	1
境野南	43	仁木馨市	5.8	5.4	0.7				
	57	中村良市	7.7	7.2	0	1	3	2	1

土壤区名	地点 番号	農 家 名	反 応		Y ₁	矢 木 式 指 数			
			PH (H ₂ O)	PH (KCl)		CaO	MgO	P ₂ O ₅	K ₂ O
境野南一 境野南	58	上地 義親	6.1	5.8	0.5	1	2	1	3
	60	小野寺 清治	6.0	5.8	0.7	2	1	1	1
	61	川 島 清	6.0	5.5	0.7	2	2	2	3
	67	大 矢 孝	5.9	5.6	0.6	1	2	2	1
境野北一 境野北	72	白 土 光晴	5.7	5.2	0.8	1	1	1	1
幸岡一幸岡	94	中 川 茂市	5.8	5.2	1.0	2	2	2	2
	83	西 信 二	5.4	5.1	1.1	2	1	2	3
	84	鈴 木 光信	5.4	5.0	1.3	2	2	2	3
	85	遠 藤 元夫	6.4	6.1	0.4	1	2	1	3
	86	鈴 木 光信	6.0	5.3	1.0	2	2	1	2
	87	佐々木 由次郎	6.1	5.3	1.4	1	2	2	3
雄勝一雄勝	91	谷 水 文 蔵	6.4	6.0	0.5	1	1	2	1
	74	鈴 木 吉太郎	7.9	7.6	0	1	2	2	1
	76	小野垣 政 治	5.8	5.2	0.7	2	2	2	3
	78	河 野 由 蔵	5.2	4.8	1.4	2	2	2	2
	79	小 柳 源 蔵	6.1	5.2	0.8	2	2	1	1
	80	小 柳 了 キ	5.5	5.2	0.7	2	1	1	3
	82	高 橋 功	5.7	5.1	1.3	1	1	1	3
	88	佐 藤 清 吉	6.3	6.2	0.6	2	1	1	1
秋田一秋田	90	黒 川 勝 一	7.2	6.9	0	1	2	1	1
	92	片 桐 光 治	6.1	5.5	0.8	1	1	2	3

